

2024年9月30日
企画調整部企画課

基本計画案の検証

1. 基本計画案の検証

- ・財団所蔵品全数調査結果の内容と、基本計画作成時に調査・確認した結果に概ね相違がないことから、施設コンセプトや展示室及び収蔵庫の面積の妥当性を確認することができた。
- ・所蔵品の展示及び収蔵において特別の配慮が必要な大きさの資料はなく、基本計画案の想定通り、展示室は800㎡、収蔵庫は600㎡あれば足りると推定される。
- ・基本計画案では、大河ドラマ館等を活用した整備案では収蔵庫や展示室として確保できる面積が不足すること、天守閣の景観を阻害することなどを懸念事項として示していたが、財団所蔵資料一覧により、大河ドラマ館等の既存建築物及び本敷地を活用した施設整備は難しいことが明確になった。

<施設整備案>

	収蔵庫	資料 展示室	収蔵	その他支障となること
A：〈すべて活用案〉	300㎡	300㎡	財団一部所蔵品	<ul style="list-style-type: none"> ・資料展示に必要な面積が確保できない ・体験展示室を専用で確保できない ・展示室、収蔵庫の天井高が制限される
B：〈ドラマ館活用案〉	600㎡	180㎡	財団全所蔵品	<ul style="list-style-type: none"> ・資料展示に必要な面積が確保できない
C：〈ショップ棟活用案〉	600㎡	600㎡	財団全所蔵品	<ul style="list-style-type: none"> ・資料展示に必要な面積が確保できない ・体験展示室を専用で確保できない ・葵広場から天守曲輪、天守閣から葵広場が見えなくなる
D：〈全て解体案〉	600㎡	600㎡	財団全所蔵品	<ul style="list-style-type: none"> ・資料展示に必要な面積が確保できない ・葵広場から天守曲輪、天守閣から葵広場が見えなくなる
E：〈(参考) 望ましい施設規模案〉	800㎡	800㎡	財団全所蔵品 +市所蔵資料、 将来的な増加	

2. 検証結果

財団全数調査結果を受けて検証した結果、基本計画案を成案とする。

徳川家ゆかりの資料展示収蔵施設基本計画（案）の概要

(1) 施設整備の目標

2つの基本目標に加え、浜松市の魅力向上を積極的に仕掛ける戦略目標を設定した。

【基本目標1】

「徳川家ゆかりの地」としての都市ブランドを確立し、国内外に発信する

【基本目標2】

日本近世史を代表する徳川記念財団及び徳川宗家コレクションを保存・継承、活用する

【戦略目標】

260年におよんだ江戸時代の泰平の世

その原点の地としての“浜松”の価値を顕在化する

(2) 施設整備コンセプト

家康公が天下人の基礎を築いた浜松の地で、徳川将軍家の至宝に触れ、徳川家ゆかりの地へいざなう

(3) 施設計画の考え方

① 既存建築物の活用について

- ・ 仮設建築物から常設建築物への変更は、現行法規への適合が必要
- ・ 高気密型の温湿度環境とするため、壁や天井の内外仕上げを撤去し、新たに壁や天井を設ける必要があるため、既存建築物の再利用は柱、梁等の構造フレームのみ
- ・ 既存建築物は平面・天井高さに制約あり

② 収蔵資料について

- ・ 徳川記念財団及び徳川宗家が所蔵する全ての資料約20,000点の展示収蔵を想定

③ 諸室機能と必要面積について

【展示室】 展示室の面積には明確な基準はなく、類似施設では800～1,000㎡程度の施設が多い
巡回展に対応するための一般的な面積は、800㎡以上必要

【収蔵庫】 徳川記念財団及び徳川宗家所蔵資料の収蔵には、600㎡必要

財団所蔵資料に加え、市所蔵資料や将来的な増加に対応するためには、800㎡必要

④ その他

- ・ 浜松城公園長期整備構想における「景観の考え方」に配慮
- ・ 本敷地の建築可能範囲及び掘削深さは、埋蔵文化財の保護を前提

(4) ゾーニング図

①<全て活用案>「全ての既存建物を活用」

ドラマ館利活用	必要面積	文化庁指針
○	×	△

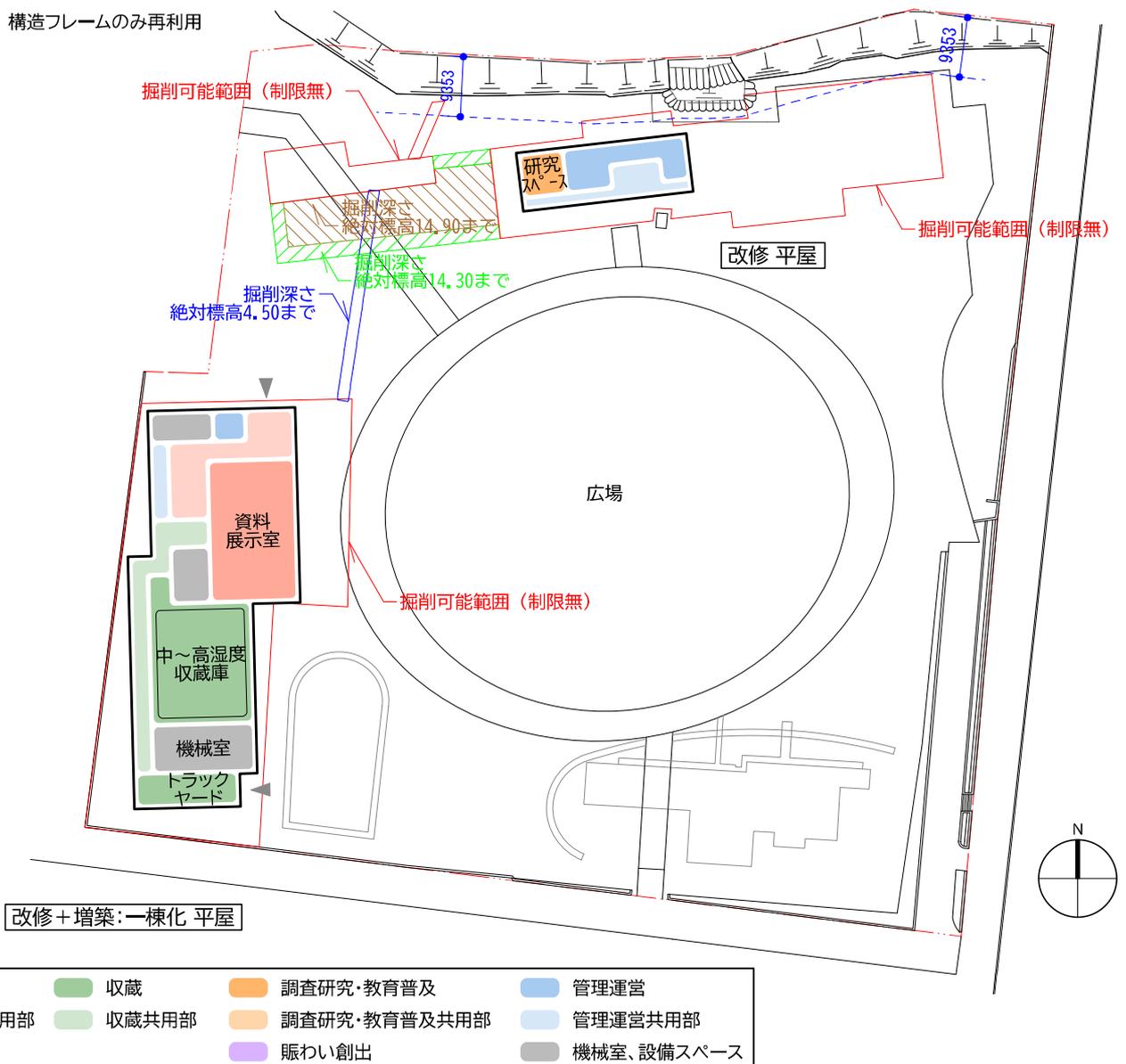
<概要>

ドラマ館	ドラマ館とオフィス棟は接続（部分的に増築）して1つの建物とし、文化庁指針に則った収蔵庫及び展示室として利用				
ショップ棟	研究スペース、事務室等として利用				
展示室	資料展示室は最大300㎡、体験展示室は不可または資料展示室を減らして体験展示室に利用				
収蔵庫	最大300㎡				
その他	現状の大河ドラマ館の天井高が4.6mであり、雨水対策等で地盤面からの嵩上げ、天井ダクトの改修工事により天井の低い（2.6m以下）展示室、収蔵庫となる				
延べ面積	1,540㎡	資料展示室 研究スペース	300㎡ 体験展示室 50㎡ 機械室等	資料展示室内 230㎡ 事務室等	収蔵庫 300㎡ 90㎡
概算費用	23.6億円（近隣の博物館の㎡単価を参考に、物価上昇1.23倍・ZEB化を見込む）				

【参考】大河ドラマ館を改築した際の断面イメージ



構造フレームのみ再利用



改修+増築：一棟化 平屋

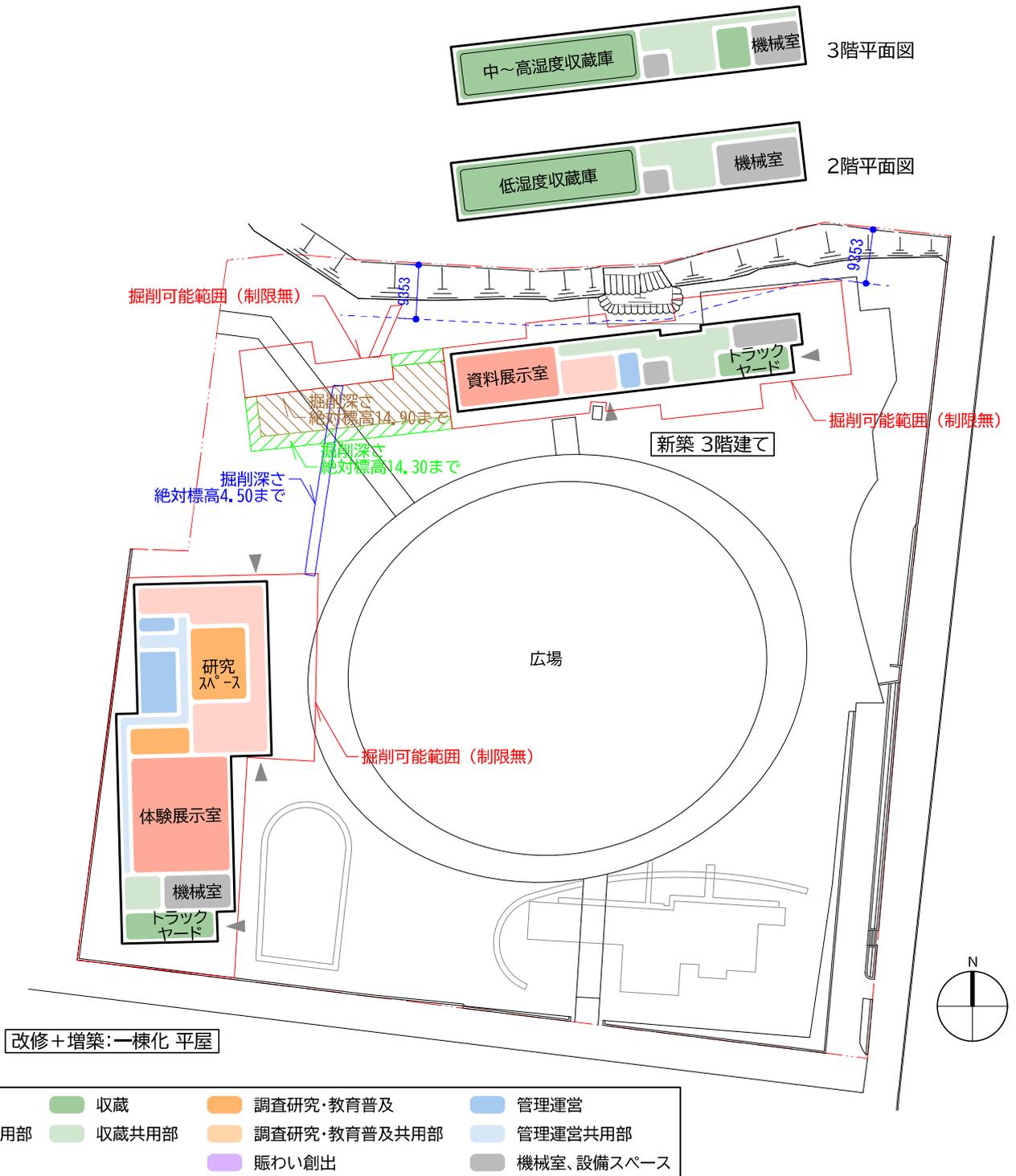
展示	収蔵	調査研究・教育普及	管理運営
展示共用部	収蔵共用部	調査研究・教育普及共用部	管理運営共用部
		賑わい創出	機械室、設備スペース

②<ドラマ館活用案>「ドラマ館及びオフィス棟を活用、ショップ棟を解体・新築」

ドラマ館利活用	必要面積	文化庁指針
△	△	○

<概要>

ドラマ館	ドラマ館とオフィス棟は接続（部分的に増築）して1つの建物とし、体験展示室や研究スペース、事務室等として利用				
ショップ棟	解体し、3階建て1,800㎡程度を新築、文化庁指針に則った収蔵庫及び展示室として利用				
展示室	資料展示室のみで180㎡ (資料展示室と収蔵庫は同じ建物にする必要があるため、新築棟に限定)				
収蔵庫	最大600㎡				
その他	体験展示室は430㎡で収蔵庫と動線が分かれるため資料展示室は不可				
延べ面積	3,100㎡	資料展示室 180㎡	体験展示室 80㎡	340㎡ 収蔵庫	600㎡
		研究スペース	80㎡	410㎡ 事務室等	90㎡
概算費用	42.7億円（近隣の博物館の㎡単価を参考に、物価上昇1.23倍・ZEB化を見込む）				

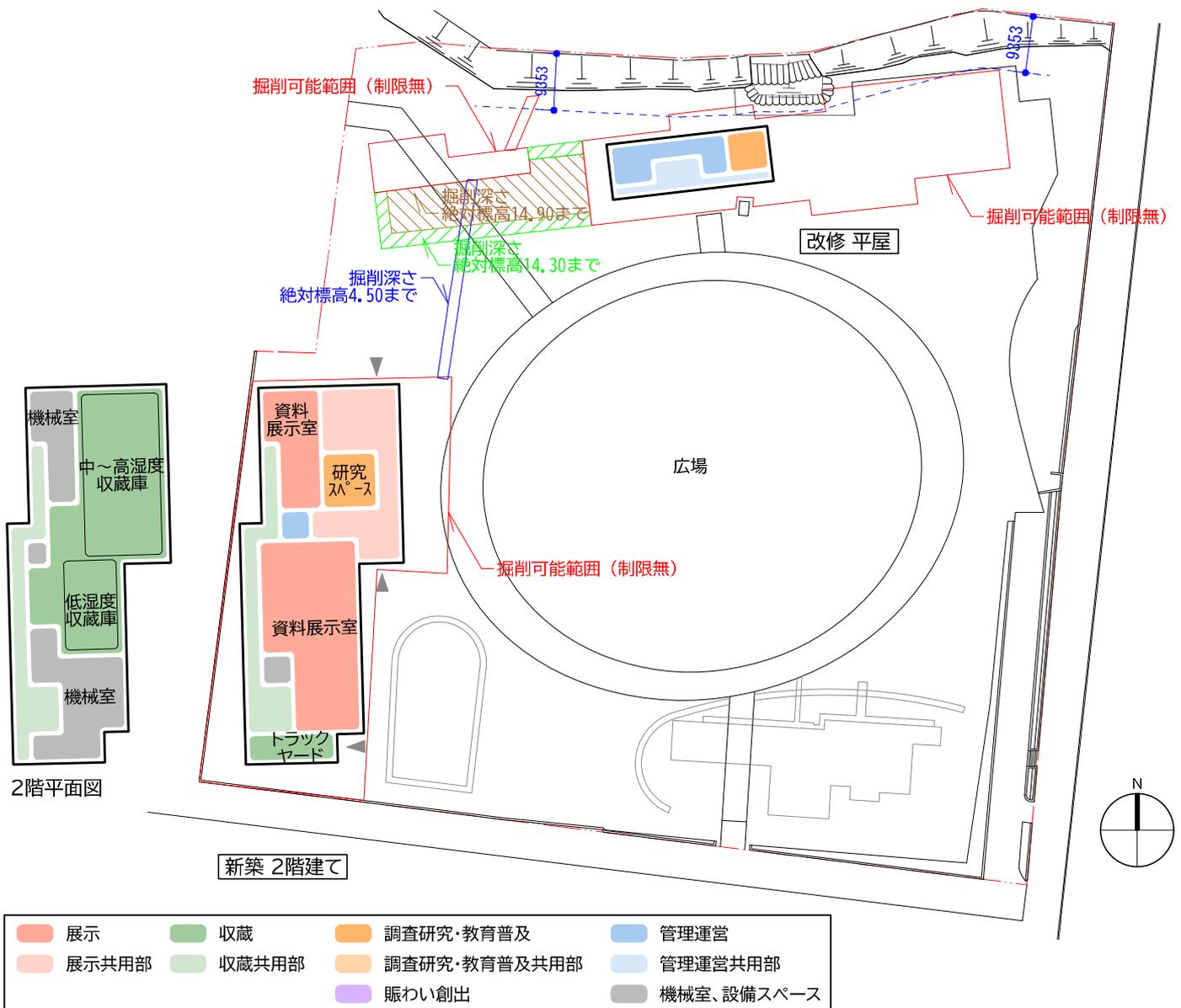


③<ショップ棟活用案>「ドラマ館+オフィス棟を解体・新築、ショップ棟を活用」

ドラマ館利活用	必要面積	文化庁指針
△	△	○

<概要>

ドラマ館	ドラマ館とオフィス棟は解体。2階建て2,600㎡程度を新築し、文化庁指針に則った収蔵庫及び展示室として利用						
ショップ棟	ショップ棟は、研究スペース、事務室等として利用						
展示室	資料展示室440㎡、体験展示室も資料展示室に利用した場合は最大600㎡						
収蔵庫	最大600㎡						
その他	広場から浜松城天守曲輪と天守門が見えなくなる						
延べ面積	2,840㎡	資料展示室	600㎡	体験展示室	資料展示室内	収蔵庫	600㎡
		研究スペース	50㎡	機械室等	410㎡	事務室等	90㎡
概算費用	39.9億円（近隣の博物館の㎡単価を参考に、物価上昇1.23倍・ZEB化を見込む）						

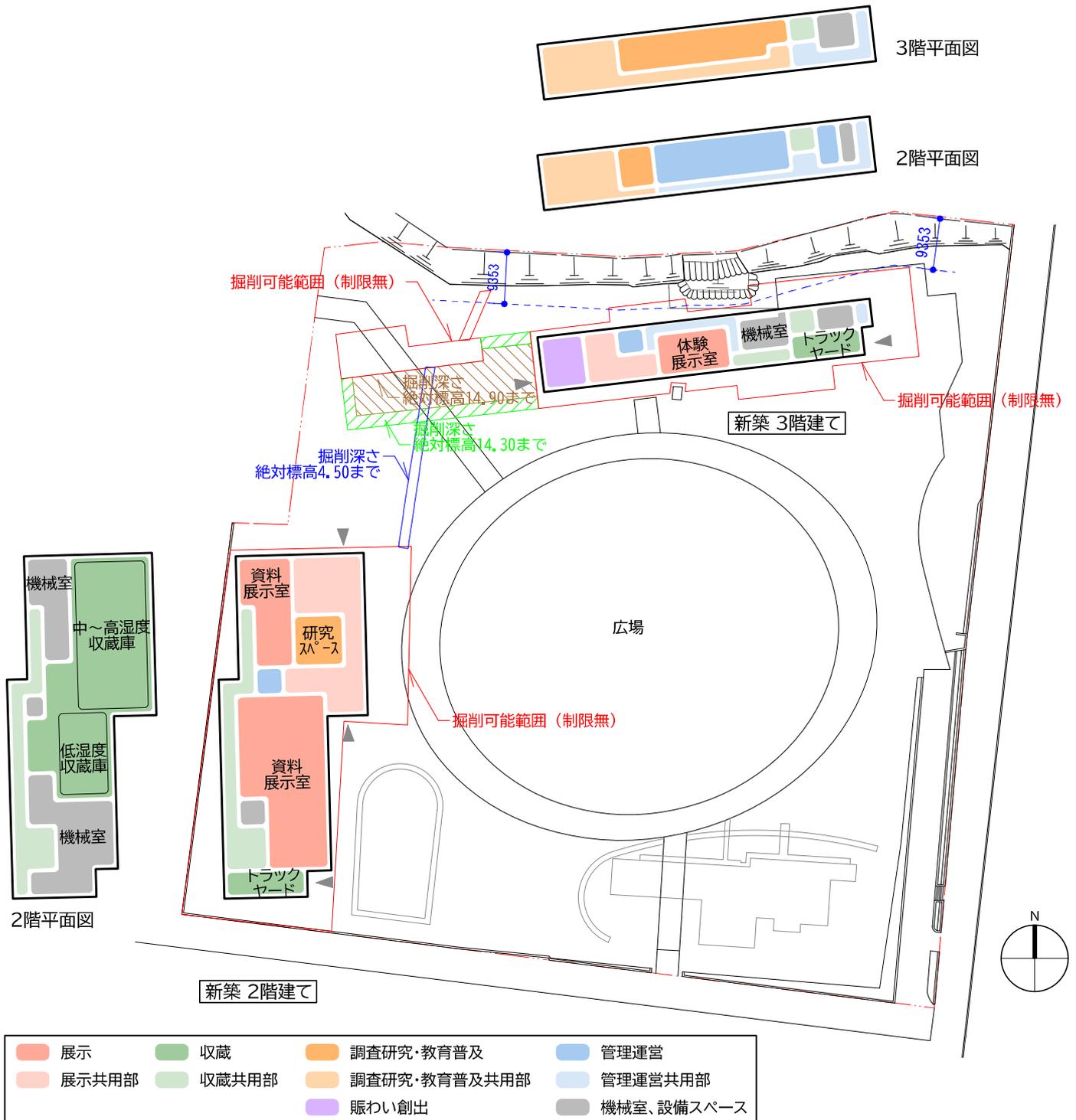


④<全て解体案>「全ての既存建物を解体・新築」

ドラマ館利活用	必要面積	文化庁指針
×	△	○

<概要>

ドラマ館	ドラマ館とオフィス棟は解体。2階建て2,600㎡程度を新築し、文化庁指針に則った収蔵庫及び展示室として利用						
ショップ棟	解体し、3階建て1,800㎡程度を新築、体験展示室や研究スペース等として利用						
展示室	資料展示室600㎡						
収蔵庫	最大600㎡						
その他	広場から浜松城天守曲輪と天守門が見えなくなる						
延べ面積	4,400㎡	資料展示室	600㎡	体験展示室	100㎡	収蔵庫	600㎡
		研究スペース	80㎡	機械室等	580㎡	事務室等	200㎡
概算費用	59.0億円（近隣の博物館の㎡単価を参考に、物価上昇1.23倍・ZEB化を見込む）						

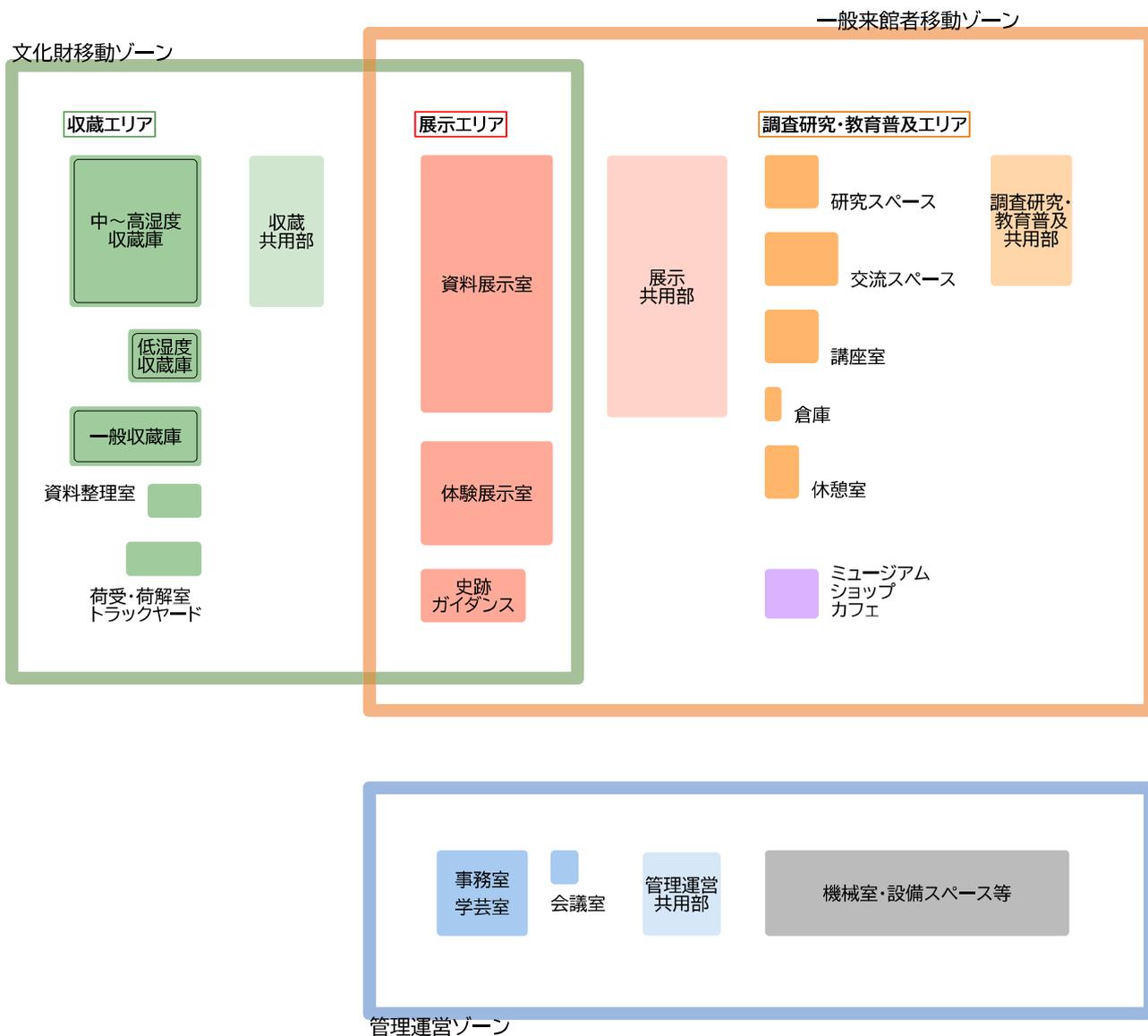


⑤<参考(望ましい施設規模案)>

ドラマ館利活用	必要面積	文化庁指針
×	○	○

<概要>

展示室	資料展示室800㎡、体験展示室最大350㎡						
収蔵庫	最大800㎡						
その他	敷地選定が必要。						
延べ面積	4,950㎡	資料展示室	800㎡	体験展示室	350㎡	収蔵庫	800㎡
		研究スペース	80㎡	機械室等	660㎡	事務室等	150㎡
概算費用	65.2億円(近隣の博物館の㎡単価を参考に、物価上昇1.23倍・ZEB化を見込む)						



展示	収蔵	調査研究・教育普及	管理運営
展示共用部	収蔵共用部	調査研究・教育普及共用部	管理運営共用部
		販わい創出	機械室・設備スペース

(5) 各案の比較一覧

	全て 活用案 (P. 4)	ドラマ館 活用案 (P. 5)	ショップ棟 活用案 (P. 6)	全て 解体案 (P. 7)	参考 (望ましい 施設規模案) (P. 8)
ドラマ館	○ 改修	○ 改修	× 2階建て新設	× 2階建て新設	/
ショップ棟	○ 改修	× 3階建て新設	○ 改修	× 3階建て新設	
景観	○	△ 敷地北⇔天守閣	× 広場⇔天守閣	× 広場⇔天守閣 敷地北⇔天守閣	
延べ面積	- 1540㎡	- 3100㎡	- 2840㎡	- 4400㎡	- 4950㎡
資料展示室	× 300㎡	× 180㎡	× 440㎡	△ 600㎡	○ 800㎡
体験展示室	× -	○ 340㎡	× -	△ 100㎡	○ 350㎡
収蔵庫	× 300㎡	△ 600㎡	△ 600㎡	△ 600㎡	○ 800㎡
資料展示室高さ	× 2.1~2.6m	○ 新設	○ 新設	○ 新設	○ 新設
研究スペース	○ 50㎡	○ 80㎡	○ 50㎡	○ 80㎡	○ 80㎡
機械室等	- 230㎡	- 410㎡	- 410㎡	- 580㎡	- 660㎡
事務室等	- 110㎡	- 110㎡	- 110㎡	- 240㎡	- 190㎡
概算費用	23.6億円	42.7億円	39.9億円	59.0億円	65.2億円

- 景観 : 「ショップ棟活用案」、「全て解体案」は、葵広場から天守曲輪が見えなくなる。また天守閣から葵広場も見えなくなる。
- 資料展示室 : 「全て活用案」、「ドラマ館活用案」、「ショップ棟活用案」は、資料展示に必要な面積を確保できない。
- 体験展示室 : 「全て活用案」、「ショップ棟活用案」は、体験展示室を専用で確保することができない。
- 収蔵庫 : 「全て活用案」は財団所蔵品を全て収蔵するための面積が不足しており、他の案についても財団所蔵品以外の資料を収蔵する面積は確保できない。
- 資料展示室高さ : 「全て活用案」は大河ドラマ館棟を改修して、文化財を収蔵可能な資料展示室を整備するため、天井高が2.1~2.6mに制限される。



徳川記念財団の所蔵品を全て収蔵した上で、施設コンセプトを満たしつつ、大河ドラマ館等を最大限活用する整備方法を検討したが、いずれの方法においても、

- ・収蔵庫や展示室として確保できる面積が不足すること
- ・天守閣の景観を阻害すること

などが明らかになったため、大河ドラマ館等の既存建築物及び本敷地を活用した施設整備は難しい